

阿寒IC～釧路西ICが令和6年12月22日開通へ。 —釧路市と札幌市が高規格道路で直結し、 釧路・根室地域へアクセスが向上—

北海道横断自動車道 根室線(本別～釧路)
阿寒IC～釧路西IC

北海道を南は黒松内町から東は根室市までを結ぶ「北海道横断自動車道根室線」。北海道開発局が整備を進めてきた阿寒IC～釧路西ICまでの区間(延長17km)が、いよいよ令和6年12月22日に開通する予定。この区間が開通することで、物流面や観光面などさまざまな利便性が向上。事業の背景や工事の概要、期待される効果などを北海道開発局 釧路開発建設部の両氏に聞いた。

—阿寒IC～釧路西ICの整備について、背景や工事概要を教えてください。

北海道横断自動車道根室線は、黒松内町を起点として札幌市、帯広市、釧路市等を経由し、根室市に至る高規格道路です。

そのうち、本別IC～釧路西IC間は、平成15年の国土開発幹線自動車道建設会議において新直轄方式に移行し、平成16年度から北海道開発局が事業を実施してきました。

この道路は、高速ネットワークの拡充による釧路圏と



国土交通省 北海道開発局
釧路開発建設部 釧路道路事務所
第3工務課長

鶴谷 孝一 氏



国土交通省 北海道開発局
釧路開発建設部 道路計画課
道路調査官

藤岡 康憲 氏

道央圏・十勝圏・オホーツク圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び国際拠点港湾である苦小牧港や拠点空港である新千歳空港等への物流の効率化等の支援を目的とした延長65kmの道路です。

現在までに供用している本別ICから阿寒ICまでの区間は、山岳部を通過するためトンネルが17本、橋梁が23橋といった構造物比率が高い道路です。今回開通する阿寒ICから釧路西ICまでの区間は、丘陵地から平野部で軟弱地盤地帯であることから、軟弱地盤対策を行いながら工事を進めてきました。

本別IC～釧路西IC間の整備状況としましては、平成



図1 北海道横断自動車道 根室線(本別～釧路) 阿寒IC～釧路西IC 今回の開通区間



写真1 釧路西ICを鳥瞰する空撮写真

21年11月21日に本別IC～浦幌IC間の8km、平成27年3月29日には浦幌IC～白糠IC間の26km、平成28年3月12日には白糠IC～阿寒IC間の14kmが開通しております。残る阿寒IC～釧路西IC間の延長17kmにつきましても、11橋の橋梁及び切土や盛土などの改良工事等を行っており、今年度内の開通に向けて工事を進めているところです(図1、写真1)。

——工事にあたって、ご苦労された点や工夫された箇所があれば教えてください。

阿寒IC～釧路西ICは、平野部と丘陵地を通過する路線となっており、全区間の約75%が軟弱地盤上の盛土区間で計画されています。

平野部地盤は、表層から泥炭層・中間砂層・下位粘性土層が分布する層厚15～40m程度の厚い軟弱層(泥炭性軟弱地盤)が広範囲に形成されています。このような軟弱地盤上に盛土や橋梁・ボックスカルバート等の構造物を構築する際に課題がありました。大きくは軟弱地盤の圧密沈下、すべり破壊が挙げられます。そこで、これら盛土や構造物を安全かつ経済的に構築するため、軟弱地盤対策工を検討し施工しました。

盛土部の軟弱地盤対策工として、まず土工による沈下対策工である「載荷盛土」を施工しています。沈下量分を予め余盛りすることで、計画盛土高さを確保しています。また、「載荷盛土」を施工する際の安定対策工としては、盛土破壊を起こさせないことが重要で、盛土の施工速度は遅くゆっくりと施工し、軟弱地盤の強度を増加させることで盛土の安定性を確保する「緩速載荷工法」を用いています。これらの土工のみの対策で盛土を立ち上げることで、建設コストの縮小を図っております。

また、沈下が収束するまでに何十年もかかってしまう箇所では、残留沈下対策が必要です。このような箇所では、将来的な路面の凸凹の発生(不同沈下)を極力抑えつつ、供用までの期間を短縮するため、軟弱地盤にプラスチック製の薄い排水材を打設し圧密排水を促す「バーチカルドレーン工法」を用いました(写真2)。



写真2 軟弱地盤対策工の様子

軟弱層が厚く分布している区間における橋梁の施工にあたっては、支持地盤まで50mほど杭を打設し基礎を構築しました。また、橋台背面部では盛土の偏載荷重の影響により橋台が動いて変状してしまわないよう、軽量盛土工としてFCB工法(気泡混合軽量盛土工法)やEPS工法(発泡スチロール土木工法)を施工しています。

——開通後に期待される効果を教えてください。

北海道における生乳生産量は、全国シェアの約6割を占めており、北海道の代表的な産業のひとつとなっています。釧路・根室地域は、北海道の中でも酪農業が盛んな地域であり、生乳生産量の全国シェアも第1位となっています。

酪農業に欠かせない飼料穀物の輸移入量は、年間約180万tで、そのうち約5割を釧路港で扱っています。釧路港の飼料穀物の拠点としての役割は大きくなっています。

釧路港は、平成23年度に国際バルク戦略港湾に選定され、その後の国際物流ターミナル整備事業に伴い、サイロの増設や飼料工場の新設等の民間投資が



図2 生サンマの道外出荷輸送ルート

誘発されています。阿寒IC～釧路西ICが開通し、釧路港から最寄りのインターチェンジまでの距離が約4kmと近くなることにより、流通の利便性が向上し、更なる産業の競争力強化や輸送能力の向上が期待されます。

また、漁獲量が全国1位の北海道の中でも、特に漁業が盛んな釧路・根室地域は海産物の宝庫です。この地域を代表する魚であるサンマは全国シェアの約6割を占め、全国1位の漁獲量を誇ります(図3)。生サンマは北海道横断自動車道などを通行し、道内はもとより400km以上離れた苦小牧港、小樽港を経由して道外へ出荷されています。本道路の開通により、消費地や輸送拠点へのアクセス性が向上することで、ドライバーの負担や輸送コストが軽減され、生サンマをはじめとする海産物等の出荷における安定的かつ持続可能な物流ネットワークの構築が期待されます(図2)。

——観光面での効果はどう予想されますか?

釧路・根室地域では、『釧路湿原』や、世界三大夕日で有名な『幣舞橋の夕日』、日本最東端の『納沙布岬』、世界有数の透明度を誇る『摩周湖』など、多くの観光資源が点在しています。阿寒IC～釧路西ICの開通により空港と観光地間の定時性・速達性が向上することで、釧路空港を拠点とした広域的な観光の活性化も期待されます(図4、5)。

釧路市では、夏でも冷涼な気候に加えて、豊かな自然観光資源を活かした長期滞在の事業を推進しており、長期滞在(移住体験)事業「ちょっと暮らし」の利用者数は13年連続で全道第1位となっています。釧路空港は羽田空港との定期便のほか、関西方面からの季節便がそれぞれ就航しており、阿寒IC～釧路西ICの開

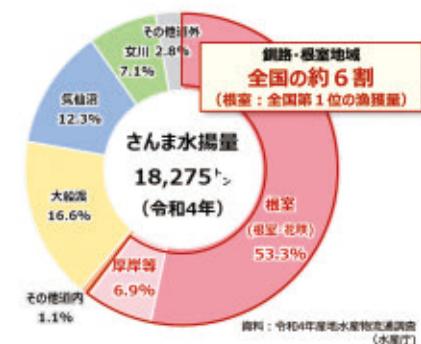
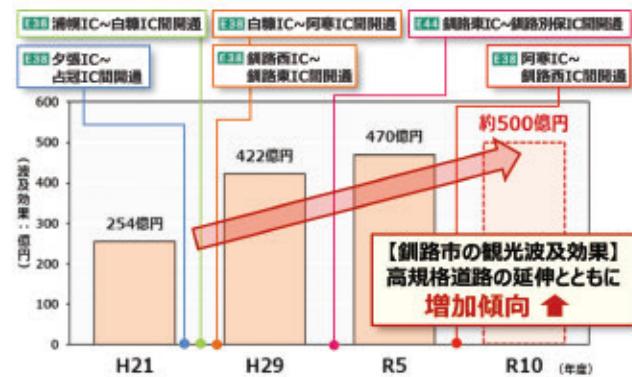


図3 生サンマの全国シェア

図4 釧路市の観光消費による経済波及効果の変化
資料:第2期釧路市観光振興ビジョン(釧路市)

【所要時間】資料:令和3年度全国道路・街路交通情勢調査(国土交通省)
※釧路市役所～札幌市役所間で算定。
※阿寒IC～釧路西ICの旅行速度は、70km/hで算出。

図5 釧路～札幌間の所要時間の変化

通により、釧路空港から市街部へのアクセス性が向上し、釧路市を拠点とした長期滞在の活性化が期待されます。

——阿寒IC～釧路西ICの開通による釧路・根室地域へのアクセス向上が期待される中、周辺の自治体からはどのような要望がありましたか?

物流面や観光面での効果のほか、釧路・根室地域で唯一の三次医療施設である市立釧路総合病院への救急搬送について、搬送時間の短縮や揺れ・振動の少ない搬送による患者への負担軽減、救急車の往復時間の短縮による確実な救急体制の確保などの期待の声もあり、自治体や地域の方々から1日も早い開通が望まれているところです(図6)。

さらには、令和6年7月11日に実施した羅臼小学校の6年生を対象とした現場見学会では、参加した児童から「新しい道路を造ることで、移動手段も広がる」「高速道路だから速く移動できるので羅臼に来る人も増えると思う」といった期待の声や、「思っていた以上に道路が広くて車で走ってみたい」といった声など、開通を心待ちにする子どもたちの素直な感想を聞くことができました(写真4)。

——災害時においてはどのような役割を担う道路になりますか？

釧路・根室地域は、今後30年以内に震度6以上の揺れに見舞われる確立が非常に高い地域です。大規模地震による大きな津波が発生した際は、市街地や国



写真4 羅臼小学校6年生が現場見学会に訪れた際の様子

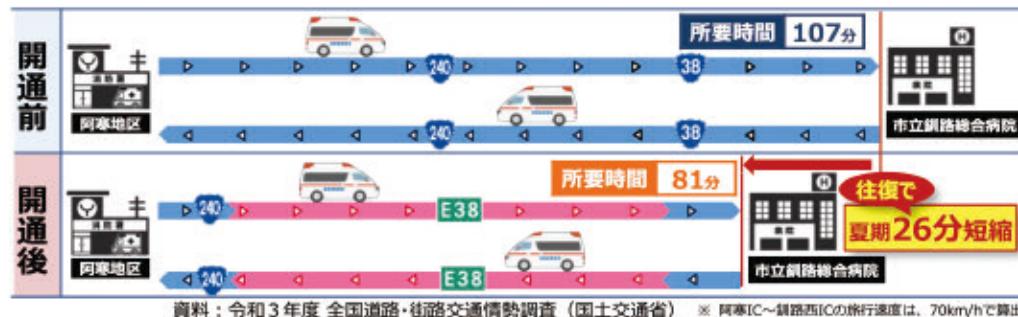


図6
阿寒IC～釧路西IC間開通による救急搬送面での効果

道の浸水が予想されており、津波発生時における確実な緊急輸送道路の確保が必要です。今回の開通により津波浸水エリアを回避し、釧路市内へのアクセスが可能となり、被災地への道路啓開や救援物資の輸送などの迅速な復旧活動を支援します。

——アピールすべきポイントがあれば教えてください。

釧路・根室地域には、世界自然遺産に登録されている知床国立公園をはじめ、釧路湿原国立公園、阿寒摩周国立公園、厚岸霧多布昆布森国定公園など豊かな自然があり、国の特別天然記念物であるタンチョウなどの野生動物も見ることができます。またサンマや牡蠣など季節ごとに海産物も豊富で、おいしいグルメも魅力的です。阿寒湖アイヌコタンでは、ユネスコ世界無形文化遺産に指定された「アイヌ古式舞踊」も鑑賞することができ、自然・食・文化を思う存分満喫できる地域です。

阿寒IC～釧路西ICの開通により、札幌市と釧路市街部が高規格道路で直結します。釧路市と札幌市の片道の所要時間は約4時間となり、全線に渡り一般道を通行した場合と比べて、往復で約5時間の短縮となります。また、新しくできる釧路空港ICから「釧路空港」までの距離は約5km。新千歳空港・丘珠空港だけでなく、羽田空港にも定期便が就航していますので、道内はもとより全国各地から釧路空港を使った道東方面へのアクセスが大変便利になります。

さらに近くなる釧路・根室地域にお越しいただき、魅力たっぷりの「ひがし北海道」を満喫していただけるとうれしいです。